

ともしび通信

発行：NPO法人没イ手の会・京都



みんなでお歌おう!

もうすぐそこに 夏が

まぶしい青空の下で！



銀座での生活 II

「山崎君、今日は学校だからそのまま店に入るからね」「うん、わかった」。私は銀座に出たから週に3日は東洋大学に潜りの学生として、講義を聴講していました。

京都で私を大学に入れてくれた河波さんが京大の大学院から東洋大学の講師になって講義をしておられたので、その講義を聞きに東洋大学に行きました。11時頃から2時頃まで講義（東洋哲学）を聞いて、それから銀座の店に入るといふ生活を始めていました。

河波さん、その頃は河波先生ですが、先生の講義は中々難しく、東洋哲学といっても西洋哲学も入って来ますし、私には本がありませんので毎度理解する

のに苦勞していました。しかし、幸いに学生服もあり、潜りの学生とは誰も気が付いていませんでしたので、楽しく学生生活を送っていました。お昼は学食で安く食べられますし、若い可愛い女の子の顔も拝めますし、と学生生活を満喫していました。

東洋哲学は主に仏教の教えを中心に講義があり、私としては興味深いものでしたので、楽しく偽学生生活を満喫していました。河波先生は後に教授になり、名誉教授になり世界賢人100人に選ばれた方ですが、その頃はそんな事はまだ決まって居ませんでしたので、私としては兄貴分のような存在の人でした。今から考えると兄貴分だなんてとんでもない事で厚顔の至りです。仏教は私にとって一生

の勉強ですから、わからない事ばかりですが、しっかりと聞いていました。

夕方から銀座の店に入り、掃除、仕込み、おつまみの注文が私の仕事で、このおつまみの注文から私の人生を左右する出来事が起きるのです。

夕方5時頃、決まっておつまみ屋さんから電話がかかって来ます。おつまみは、バーテンダーさんが作るものと、乾き物例えば、ピーナツ、おかき、スルメ等ですが、それは私の仕事として毎日注文します。その電話をかけてくるのが毎度同じ人です。自然と親しく口を聞く事になっていました。その人にはどうもなまりがあるので、「君はこの国の人？」と聞いたら、「私は東京です」と答えるのです。でもどうもイントネーションが違うので「嘘だあ東北だろう」「なんでわかったのですか」「それやわかるよ、

東北なまり丸出しだよ」「わあハズかし」「なんで恥ずかしいの、可愛くていいよ、無理に東京弁にしながらも東北弁でいいよ」

「ところで東北はどこ？」「私山形県新庄です」喋っているうちにだんだん東北なまり丸出しになって来てとてもそれが可愛いのです。「そう山形ですか、良いところなのだろうね」「はいお米は美味しいし、馬の肉で焼き焼きをするのがとても美味しいですよ。でも冬は雪が多くて二階から出入りするのです。田んぼの向こうの小さな小川など雪で隠れてしまつて見えなくなるほどです」と生き生きと田舎を思い出して喋る彼女に私はいつしか一度会つてみたくなつていました。「そう一度そんな雪景色を見たいなあ」「うふふ・・・」

ますね、一度君が届けてくれないかなあ」「配達する人がいるので私はできないのですよ」「そう、では一度店に遊びに来ないか？」

私もしつこいですね、でも顔が見たくて誘つて見ました。「機会があれば是非行きます。でもそこは高いのでしよう」「お金は心配しなくても良いよ。カウンターに座ってくれば私が払うから」とかっこいい事を言つてしまつてから、いくら掛かるのかチーフに聞かなくてはと少し慌てましたが、どうにかかなるだろうと。それより彼女に逢えるのが楽しみで夢中に誘いました。「ではいつか機会を見つけて遊びに行きます」と言つてくれました。「友達も一緒でも良いですか？」え！大丈夫かなお金は？男らしくなく私はおどおどしましたが、「ちよつと待つてね」と彼女を電話の向こうに

待たせて、チーフにこれこれし
かじかですが、いくら位かかる
でしょうか？と聞いて見たら、
チーフは笑いながら「君からお
金を取るつもりはないから大
丈夫招待して上げなさい」と言
って下さって、私は早速彼女に
「チーフにも了解もらったの
で二人で遊びに来て下さい」と
言いました。・・・この後どうな
っていくのか、次号のお楽しみに。
23歳の春でした。

籠谷弘

「会員 趣味のホームページ」
より その5

「あじさい川柳」 藤本花枝

とにかくは生きてきたんだ
ごまかしつつも

もの言う口今日も今日とて
どないしよ

娘との二人の暮らしいい湯
だね

「ひまわり畑」

「ひまわり短歌」 光木和子

夜八時時計を見たのか一斉に蛍
の灯り瞬き始めて

見上ぐればナンジャモンジャの
縮れっ毛 行く人皆の心くすぐり



「ひまわり俳句」 山口佳寿子

旬野菜はなれて食べる暑気払い

かけあしで季節がすすむ雨の音

「コスモス短歌」 石田禎子

日本の空予期せぬ花火に感動し
ふさぎし気持ち明るくなりて

ライブルと思いいし隣のお店とも
協力し合い知恵も出し合い

拉致されし生存願うこの年月
家族の思い届かぬ悔しき

「白ばら園」 奥村文代

クラスメート

あの人も今 独りなら

電話をかけてみようかな

心に雨が 降る夜は

受話器持つ手 止まります

あなたに雫 かかるから

あの人は今 何思う

手紙を書いて 聞こうかな

ひたすらペンを 走らすと

白い便箋 足らなくて

心残りの 長い夜

私も今 寂しいの

自由な空気 身に染みる

強がりばかり 言わないで

たまには泣きに 行こうかな

時の止まった 故郷へ

微笑みがあなたと私を結ぶ糸

ため息を残して歳が走りさる

沈黙も軽い空気に変える人

「チューリップ畑」 宮川敬子

姫竹や 天ぶら旨し 笑みこぼ

音 姫竹採り 熊鈴の音や 安堵の

初採りの にんにく吊るし 嬉

し顔 庄川の せせらぎ床(ユカ)し

夏 夏
「花水木」 籠谷弘

病んでみて初めて知るあのひと
の情け深さ我を超えたる

何ゆえに苦しき思い捨てられぬ

苦き酒さえ答えくれぬ

かにかくに雑踏の中一人出で

あの女の影を追う悲しさ

歌声喫茶 8月の予定

「西院」(第2、4木曜日)

8月13日、27日

「洛西」(第1、3木曜日)

8月6日、20日

楽々亭 8月の予定

第2回8月の予定は決まっ
ていません。7月14日に決
めます。

ともしび通信

発行元：NPO 法人没イチの会・京都

住所：京都市西京区大原野東境谷町1丁目1番地4-701

TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328

MAIL：kago@botuichi.com

●ともしび通信では、皆様の投稿を募集して
おります。身の回りの出来事や体験談など、何
でも結構です。楽しかったこと、つらい想いを
したことなど、様々な胸の内を皆様と共有して
行きたいと考えております。